

私は4年ほど前から、IT の研修に携わっています。

それ以前は外資系コンピュータメーカーに勤務し、製造業のお客様担当のシステムズエンジニアとして、お客様とともに新規アプリケーションの企画、開発に従事しました。その後、その経験をもとに、製造業の他のお客様向けに、システムインテグレーションを提案するソリューションスペシャリストの業務を経て、コンサルティング部門に異動し、お客様のビジネス上の課題解決のご支援をするコンサルティングに従事しました。

そのような経験を生かして、BABOK の研修を昨年夏からご提供させていただいておりますが、貴重な時間とお金をつかって私のコースへご出席くださる方々へ、少しでも品質の高い内容をご提供すべく、CBAP 認定への挑戦を決意しました。

受験に臨むにあたって、伊藤 衡 様、庄司 敏浩 様の合格体験記を大変参考にさせていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

受験に際しての手続き、IIBA とのやり取り、受験会場の様子などについては、すでに合格された皆様から詳しく情報提供されていますので、ここでは合格に向けて私なりに実行したり、工夫した点について整理しました。

これから受験される方に、少しでもお役に立つことができればと願っております。

1. CBAP®認定出願申請

一度で合格しました。

特にコンサルタント時代に私が業務で実施したことは、殆ど BABOK の内容そのものだったので、きちんと集計して少ない手間を入力するという他に問題はありませんでした。

具体的には、実施したプロジェクトでは毎週予定と実績の管理もしていたので、その記録をもとに、個別に入力したと同時に各知識エリア毎の全体の合計が算出できるように作成したエクセルを使用して集計の手間を省きました。

集計の手間を省いた分、Work Experiences については、プロジェクトの目的だけでなく実施した内容、果たした役割などについて具体的にわかるように、全プロジェクトについて各々2ページくらいの分量で記述しました。

2. 受験

1回目は合格ラインまで少しだけ届かず(試験終了後の結果表示画面に合格ラインへの達成パーセントが表示されました)、2回目に合格しました。

恥ずかしながら、BABOK の内容理解度についてはそこそこ自信があったので、この不合格はかなりこたえました。しかし、このまま引き下がるわけにはいかないので、受験後になぜ不合格だったのかを、しっかり考えました。

私が自分の不合格の原因として出した結論は、3 時間 30 分という短い時間に 150 問の問題を理解し、考えて答えなくてはならないのに(1 問あたり 84 秒)、そのための準備が不足していたということです。

問題の記述は選択肢の答えも含めて、数行から 10 数行になるので 100 ワードから 200 ワードくらいでしょうか……。個人の英語能力の差もありますが、日本人で英語の好きな人の平均的なリーディングの速度は毎分 100 ワードくらいだそうです。だから、集中力を途切れさせることなく、150 問の記述をかなりな速度で理解し続けることは、結構大変なことだと想像できるかと思います。

1 回目の試験では、英語の問題文の理解に時間がかかり過ぎていたので、『考える時間が短くなった』⇒『あせる』⇒『冷静に問題が解けなくなる』⇒『正答率が下がる』という悪循環に陥ってしまったというものでした。

そこで、英語のリーディング速度を上げる、設問の形式に慣れるということを目的に、2 度目の受験に備えて下記を実施しました。

① 日本語版ではなく、BABOK の英文テキストを繰り返し読む

内容の理解についてはそれほど不足があるとは思えなかったのですが、理解を深めるというよりは、できるだけ英語の BABOK に慣れるということを目的にしました。そのために、BABOK の英文テキストを iPad に入れて、移動時間など少しの時間でも BABOK に触れることができるよう工夫しました。

これにより、さっと英語を眺めてから内容を理解するまでの時間が短縮しました。

② 英語の模擬試験を数多くこなす

『CBAP Certification Study Guide V2.0』にある模擬テストや、iPhone の有料アプリ

『CBAP Exam Prep』を何回も繰り返しました。この二つで約 800 問程度です。

これにより、問題を読んで解答をするリズム感が体得できました。

これらの対策の効果は著しく、2 回目の試験では問題を理解する時間ではなく本来の問題について考えるという時間を十分確保でき、合格することができました。